

第5回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

1. 日時・場所

日時：令和7年3月24日（月） 午後4時～午後5時30分

場所：京都ガーデンパレス 2階「葵」

2. 出席者

【委員】(21名)

山極委員（座長）、西脇委員、松井委員、堀場委員（代理出席）、村田委員（代理出席）
（以上共同代表4名）、安藤委員（代理出席）、池坊委員（代理出席）、ウスビ委員、内田委員、小川委員、沖田委員（代理出席）、奥田委員、榊田委員、千委員、田中委員、橋爪委員、平尾委員、前川委員（代理出席）、村尾委員（代理出席）、山地委員（代理出席）、吉本委員（代理出席）

【オブザーバー】

今泉オブザーバー、信谷オブザーバー

3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつの後、大阪・関西万博きょうとアクションプラン Ver.4（案）について事務局より説明。その後、新たに取組を提出された委員から取組についてご説明いただき、委員から御意見をいただいた後、委員の承認によりアクションプラン Ver.4 が決定した。
- ・関西パビリオン京都ゾーンにおける出展者の詳細やスタッフからのコメントについて事務局から説明。また、万博会場での催事である「EXPO KYOTO MEETING」について EXPO KYOTO のメンバーで同イベントに登壇される杉岡様からご説明いただいた。
- ・大阪・関西万博きょうと推進委員会認証制度及び大阪・関西万博1ヵ月前における機運醸成の取組について事務局から報告した。
- ・フラッグシップ・アクションの関係者から、進捗などについてご報告いただくとともに、取組についての宣誓をいただいた。

<座長あいさつ>

- ・推進委員会も、今日で大詰めを迎え、総決算して万博に突入していく。
- ・万博会場を視察してきたが、着々と準備が進んでいる様子。8つのシグネチャーパビリオンも、ほぼ完成したということで、いのち輝く未来社会のデザインがどう展開するか大変楽しみ。
- ・先週のノーベルプライズダイアログ東京で石黒浩さんと、アメリカのノーベル生理学賞受賞者と鼎談したが、やはり、命というのはバラエティに富んでいて、これから様々な構想が絡み合っていくだろうと思っている。
- ・この万博で一体どういうものが見えるのか、大変楽しみにしているが、京都も負けなように挑んで参りたいと思っているので、今日は様々なご意見を伺いたい。

<主な意見>

- ・大阪・関西万博に国内外から来られる方々には、京都のものづくり産業や企業にも高い関心を示されるビジネスパーソンもおられると考えており、万博をきっかけに入洛されるビジネスパーソンと企業との間で、新たなビジネスチャンスを生むきっかけを作りたい。
- ・与謝野町が選ばれる周遊エリアとなるよう、7つのアクションプランを進め、これまでの歩みを、万博を契機として、強く発信をしていくことで、シナジーを生み出していきたい。
- ・大阪・関西万博において、ネガティブエミッション技術の実証プラントを展開する。他にも、体験型の展示を行い、温暖化対策技術・CCS技術の一端を見ていただく。
- ・今回の万博ではテクノロジーを利用したこれからの広報の仕方、宣伝の仕方というものが出試される場ではないかと考えている。京都もしっかりそれに取り組んで参りたい。
- ・日本最大級のヘルスケア領域に特化したスタートアップ育成プログラム兼プラットフォーム「HVC KYOTO 2025」や、スタートアップイベント「IVS」などとともに、世界を舞台に活躍するスタートアップを京都から続々と輩出するスタートアップエコシステムの充実を図って参りたい。
- ・料亭やレストラン、ホテルなどにおいて、食を通じて京都の伝統や文化を感じることができ、特別メニューを提供する「京都レストランスペシャル」や、「とっておきの京都」、「もうひとつの京都」、あるいは府市協調で行う「まるっと京都」等の事業を通じて、周遊観光を推進していきたい。
- ・どの事業についても、単年度の一過性の事業ということではなく、将来の京都の財産とし、京都のまちの活性化につなげていきたい。
- ・フラッグシップ・アクション「和食と世界の食サミット」では、5月に京都食の博覧会というイベントを京都高島屋で開催し、6月には万博会場で海外の料理人も誘致した上で、日本料理のフェローシップを開催する。
- ・スタートアップ関係のイベントとして IVS KYOTO をバージョンアップし、IVS youth というイベントを行い、10年後20年後の産業を担う若い人たち、特に子供たちに向けた体験を提供する。フラッグシップ・アクションも含め、アクションプラン全体を京都駅に設置する万博関連の情報発信拠点 EKIsSpot KYOTO で周知していきたい。
- ・できる限り多くの方に参加してもらい、見て、体験してもらうことが将来の京都の財産になると思っている。それぞれのプランの磨き上げに引き続きご協力をお願いしたい。

<フラッグシップ・アクション関係者より開幕に向けた宣誓等>

- ・「EKIsSpot KYOTO」は4月17日に京都駅の2階にオープンする。単なる観光案内所にならないよう、府域全体の魅力を世界中の人に伝えられるように、周遊観光を促進していくという目的意識をもって、皆で一丸となって取り組んでいく。
- ・「きょうとまるごとお茶の博覧会」は、4月のオープニングに始まり、地域の文化の発信や国際茶会、学生プロジェクトを経て、最後には北野天満宮でのグランドフィナーレという形で進める。京都の茶文化を支える茶人、茶商、茶の生産者、茶器、茶道具お茶菓子の職人までが一緒になり、府内各地で様々な事業を展開し、万博を契機に京都を訪れる国内外の方々に京都の茶文化を発信していく。

- ・「京都の川巡り」においては、3月16日に淀川大堰閘門の通行が可能となり、淀川筋から大阪湾までの新航路が誕生した。今年だけのイベントにとどめず、2025年を契機に、京都府における川沿いエリアの活性化、船着き場の観光地化など、川まちづくりの進展が期待される。
- ・けいはんな学研都市の各機関が協力し、大阪・関西万博の期間に合わせて4つのテーマでイベントや取組を展開する「けいはんな万博2025」を開催する。万博をきっかけとして、国内外の人の交流を活発にし、研究開発力を高めていくことでサイエンスシティとしてのミッションを果たし、わが国そして世界の未来に貢献することを目指す。
- ・「KYOTO 地球環境の殿堂 国際会議・未来会議」では、地球の環境保全に多大な功績を残した殿堂入り者と若者が地球環境について議論・提言する「国際会議」と、自然環境と郷土文化との関係について、ワークショップを通じて若者が探求する「未来会議」を開催する。人と地球の未来のあるべき姿について提言を行うことで、環境先進地・京都を改めて世界に発信していく。
- ・京都国際マンガ・アニメフェア、通称「京まふ」は、今年で14年目になる。今年は万博を契機として、より多くの海外の方に来ていただき、国際色豊かな取組として、今後のさらなる飛躍に取り組んでいきたい。

<共同代表あいさつ>

■西脇 隆俊 委員（京都府知事）

- ・各フラッグシップ・アクションについて、それぞれ関係者の方の非常に熱い思いや意気込みが感じられ、よくここまで準備をしていただいたと心から感謝を申し上げたい。
- ・アクションプランの数も300を超えて、盛り上がってきたと感じている。フィナーレに向けて更なる盛り上げにご協力をいただければありがたい。

■松井 孝治 委員（京都市長）

- ・一過性のイベントではなく、これを契機にしっかりと継続していくことが大切だと思っている。テクニカルツアーを通して、海外の関係者を様々な産業イノベーション拠点にご案内し、京都のものづくりの企業とのマッチングや、イノベーションの活性化につなげていきたい。
- ・京都市の基本構想を議論している時期でもあり、しっかり国際協調して、京都の未来づくりのビジョンも作っていききたい。オール京都の取り組みをこれからもしっかり行い、本番に向けて頑張っていきたい。

■田中 誠二 委員：堀場 厚 委員（京都商工会議所 会頭）、村田 純一 委員（公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー理事長）代理

- ・社会課題の解決に向けて京都企業が取り組む革新的な技術やサービスを展示し、京都産業の強みをいかに発信してまいりたい。
- ・万博を機に京都にお越しになる方々を、京都全体でおもてなしの心で温かくお迎えし、京都の魅力を存分に享受していただきたい。

- ・万博という貴重な機会に、京都の豊かな自然、文化、技術の蓄積を生かして、さらに京都が発展するように、京都経済界一体となって取り組んでまいりたい。

<座長あいさつ>

- ・1970年の大阪万博では京都は観客のような立場だったが、今回の万博においては、京都府市が一体となって、いろいろな取組が行われようとしている。
- ・推進委員会が立ち上がった際、文化と環境を核にして、地域振興、産業振興、そして観光誘致という3つの目標を掲げたが、そこに教育も重要な問題として入っていた。
- ・アクションプランの中には若い人たちが参加できるような取組もあり、今の若い世代が未来へ向けてどういう考えを抱いているか、それに我々シニア世代がどう協力をしていくかが、京都の未来を考える上で非常に重要になると思う。
- ・水系を通じて大阪や滋賀と繋がり、けいはんな万博を通じて奈良や大阪と繋がるなど、様々な繋がりができる。半年という試験期間を通じて、京都が将来に向けてどういう船出をするかということが問われている。
- ・今年度のインバウンド客数は3,700万人に近い数字となっており、その3分の2が万博に来ると予想されている。京都は、そのインバウンドをどう受けとめて、それを地域振興に繋げるかということを問われており、この推進委員会がどのような理想を持って、実践に移していくのかが問われていくと思う。
- ・これから始まるのだという思いが、今日新たになった。これまで尽力された京都府市のスタッフの方々に、お礼を申し上げたい。

以上